

補足資料2.

エドクター制度振り返りアンケートのQ.21およびQ.18は、自由記載であった。この自由記載の全体をととした内容については補足資料1に要約したが、本資料にはその要約の根拠となった全ての自由回答について列挙する。

Q21.最後に、生理学エドクター認定制度についてのご意見をお聞かせください。要望すること、良かったこと、改善すべきこと、今後期待することなど、自由に記載してください。
*特になし／ありがとうございます／今後もよろしく願いたします などだけの記載だけ削除した。その他、明らかな誤字や一般的ではない言い回しや所属機関などの特定に繋がる記載などは趣旨を変えない範囲で一部改変した。その上で、ほぼ全回答をカテゴリーごとに掲載する。
Cat1-1更新済・予定の方の御意見
生理学教員の公募の要件の一つとして取り入れるように各大学へ促すと良いと思います。
生理学エドクターの存在を学会外にも積極的に広報されるところを期待しております。
例えばですが、生理学エドクターの資質向上のための、主に生理学エドクターのみが参加できる研修会やオンラインセミナーも生理学会やその年会の中で設置されるとより良いのではないかと思います。（それによりさらに上級の生理学エドクターになれるなど。）
若手のキャリア形成に役立つためには、学会員以外にエドクター制度が認知される必要がある。臨床系学会における“専門医制度”と同様の位置づけとなることが望ましい。そのためには、例えば、基礎系他学会（解剖、病態生理、薬理、臨床薬理、生化学など）でも同様のエドクター認定制度を整えてもらい（既に始められている学会もある）、共同して基礎医学系の“教育専門家制度”を構築することを提案します。
ある役職以上は自動的に与えてよいのでは？もしくは、認定するのだから試験をしては？
生理学エドクター認定によって得られるメリットが今のところ感じられない。エドクターを持つことが生理学研究者のキャリアアップに活かされるシステムがあると嬉しいです。
(医学部に限った意見です)生理学を含め基礎医学全体が次の世代に教える人材の再生産に失敗している。新アカリでも教員の育成を意図した学習目標が見当たらないのは問題だと思う。生物学の知識を病態や治療の仕組に関連付けて教えられるのは、基礎から臨床迄一通り教育を受けた人材(つまり医学部出身者)が最適の筈。次の世代の教員を育成する場としての大学の役目を明らかにするよう、文科省に訴えて欲しい。
生理学エドクターの認定は、その人の教育への関心の有無が誰にもわかる、客観的な指標として、とくに人事選考で有用に機能します。生理学エドクター制度も知らない人、あるいは認定を取得していない人では、やはり危なくて教育を任せられません。
また、学部教育に限らず、生理学の考え方を次の世代に伝えられるのは、研究の第一線にいる生理学者を置いて、他にありません。教科書に書かれている生理学の知識だけを、職人に教えれば良いのなら、誰でも生理学を教えられる。しかし、その根底にある学問としての生理学の本質、生理学的なものの方や考え方は、実際に研究にたずさっている生理学者でなければ、人に教えることはできません。次の世代に生理学をどう伝えていくか、生理学エドクターの資格更新に必要な教育セッションへの参加は、そのための見聞を広げるための、とくに地方では貴重な、機会を提供します。したがって、生理学エドクター制度は、その教育に向けた視点と、教育の技法や方法論にふれる機会を、つねに生理学者に提供するという機能において、きわめて有為な制度だと考えております。
生理学会での教育関連シンポジウムへの出席動機になった。
生理学エドクター認定制度は、若い会員が、生理学教育を考える、知るきっかけになると思います。また、他大学の生理学教育の仕方などを知る機会になっていることから、将来的に、生理学教育の拡がり、専門教育の協力も可能になるのではないかと考えます。
生理学エドクターの価値を高める制度にして下さい。
私は、生理学教室に入ったにもかかわらず、教授退官後、解剖学の新教授が赴任し、解剖学教室になってしまった。そんな中で生理学エドクターの認定を得ることにより、英理学者である事の自覚と自負を保つことが出来て良かったと思う。今後とも続けてください。
支払ったお金の使途は知りたいですね、運営費に回されている？
医療系における専門医などくらべ、資格所持者にメリットがない。資格更新のために教育プログラムに参加が必須であったり、有料であったりすることにくらべて恩恵があるとは言えず、このままでは先細りになると考える。学会として各業界に積極的に制度をアピールするべきである（場合によっては、無資格者が生理学系の教員にならないぐらいの制度にするべき？）。一方、過去に本制度の有資格者に対して教科書の勧誘が送られた件についてはいまだに公式の調査結果が報告されていないのではないだろうか。今の世の中のコンプライアンス感覚からして異常事態であるといわざるを得ない。このような理由から、一度取得したため、更新は続けるが、若い人に勧められる制度とは思えない。
正直なところ、個人的には認定制度があることで得るものは特になかった。認定制度がなくても教育には力を入れて取り組んでいた。
とても有意義な制度だと思いますので、今後もぜひ継続していただけることを希望します。もし可能でしたら更新にかかるコストをもう軽くしていただけますとありがたいかと思います。
資格があっても現時点でなんのメリットも感じない認定制度そのものに疑問を感じる。
“認定医”や“専門医”とは異なり、生理学エドクターはメリットがはっきりしません。大会参加率や帰属意識を高めることが目的であれば、認定者が生理学エドクターを取得して良かった経験談などがあれば、少しはモチベーションが上がるかもしれません。
業務のうち生理学教育への比重が高い専門学校教員には「生理学エドクター」認定制度はとてありがたいと感じております。今後もできる限り積極的に「教育プログラム」に参加させていただきたく存じます。
職場を定年退職後、学会参加回数が減る場合には認定が難しくなるとは思いますが、その場合はどうすれば良いのか？
エドクター認定に関わる大会での教育プログラムが、他の本来参加したいプログラムとブッキングしてしまい参加不能になることが多く改善を望みたい。
学会内だけでなく他の人達への認知度向上を期待
臨床医学分野の「専門医」は、患者からの信頼増加や給与への反映などメリットがあるが、生理学エドクターには、そのような点が全くない。（制度としては必要と思うが）「生理学エドクターであること」によるメリットを、学会も積極的に創るべき。（たとえば、学会費値引き、教員選考時に学会推薦を与える、など）
生理学エドクター認定された人が生理学を教える資格にしてはどうか。というのは、短大、各種専門学校で生理学を専門にしていない人が生理学を教えているからです。
実際、教育職への就職の際に役立った例を示して
教育にも焦点を当てた点は良いかと思います。しかしながら現在の認定条件では資格の優位性が無く誰でも取れてしまう。機械的な業績審査ではなく筆記試験も科すべきだと思う。また教育において生理学の知識だけでなく、教育学的側面やレポートの指導法なども習得すべき技能に入れた方が良いかと思います。
とてもよい企画だと思っておりますし、他学会でも本学会でのエドクター制度を参考にしてみたいという声を聞きました。これから教育者を目指す方にも進められるといいと考えております。後学者のためにも冊子などにまとめていただけたらよいと思っています。
この制度を活用するためにも、さらに世間への周知を望んでおります。
更新の案内がメールのみで、メールの設定でそのままゴミ箱に行ってたようで、更新の期限が切れた。再取得はしないと思います。更新の案内はもう少しの方が良いと思いました。
生理学教育を主分野にする方によりメリットの高い制度にしていただけるとよしいかと思います。
講義の幅を広げるためにエラーニングが主流になってきたので自宅で講義の展開やポイント、スライドなどの資料が閲覧できるようになると助かります。
更新料が高いです。
オンラインでも、更新のための単位取得が可能にして頂きたいです。また、学会（大会）以外にも、取得のための機会があるといいです。

様々な分野の模擬講義を順番に系統立てて行っていただくと専門分野でない講義を行うときの参考になるためありがたいです。また医学部ではなく、特に専門学校においてはこの生理学エド्यूケーターの認定が重要性を増していると思います。専門学校における教育においても研究能力のある生理学エド्यूケーターが講義を担当することが望ましいと考えます。医学部生理学講座が1つに統合されつつある時代の流れにおいて、教育の質を維持しつつ、自身の研究そして研究者育成にどのように向き合えばよいのか日々悩んでいます。
講義で学生に伝えられそうな最新の知見を学ぶことができるので大変参考になっております。今後も楽しみにしております。
若い人達がポジション獲得のために履歴書に記載できる、と考えてこの制度に賛成しています。しかし、単に履歴書に書けるだけで、実際にこの認定を受けてポジション獲得に役立っていると感じたことは無いので、「生理学エド्यूケーターの認定を受けたら大学等で教育を行う能力が高い」という認識をもってもらえるような社会的活動が必要ではないか。
エド्यूケーターのための研修会があると良いのでは
本制度は、生理学分野における「認定医」と同義だと捉えています。ぜひ継続させてください。
生理学会内で持っているというだけの資格になってしまっている感じがある。学会の枠を超えて価値のある資格になれば良いと思う（具体策は思い浮かびませんが・・・）
特にありませんが、各大学でどのような実習をされているかの情報共有を積極的にやってもらえると、ありがたいです
もう少し認定の基準を厳しくしても良いのではないかと思います（教育歴や研究歴の審査を厳しく）。
教育講演を受ければ基本的に取れるという認定制度はあまり価値を高めるものではない気もします。他の学会のようにフェロー制度にして、称号を氏名の後に記載、呼称できるようにするのはいかがでしょうか？現在の状況では、特に資格を持っているメリットも大きくなく、取得、更新にお金もかかりますので、学会員の方の更新したいというモチベーションが起きない気がします。また、学会への貢献という意味でも、教育に特化するのではなく、学会活動や論文発表などそれ以外の要素も取り入れて希少価値を付けたほうが良いと思います。誰でも取れるような資格はあまり魅力を感じないのではないかと危惧しています。エド्यूケーター制度とフェロー制度の両方があるのもいいと思います。
より多くの人々に認知されるようにうまく周知すれば（いろいろな方からの知恵を募集しながら）、もっと多くの会員が認定を受けるようになるのでは。あと、今回のアンケートにも含まれるが、認定制度のメリットについての意見や考えを公表してほしい。
認定後にメリットを実感できることを提供して頂けるとありがたい。【例】生理学エド्यूケーター認定者を対象とした生理学教育に関する情報提供
生理学会外にももっと広く広報して認知度を上げ頂きたいと考えております。
学会で行う時間帯を考えて欲しい。
シニアエド्यूケーターなど、指導医に相当する資格認定に期待します。
会員数を増やすあるいは維持するための一つの手段かと察しています。専門家の講義はすごく勉強になりますが、会員になろうかという動機には働かないだろうなと思います。また、エド्यूケーターを持っているからといって実際に採用はしないでしょう。 私は単に勉強のために講義を聞きたいので、他のシンポジウムなどの発表と重ならないようにできないものかと考える次第です。
教育プログラムの出席ポイントの必要性は理解しますが、大会日程に入れると日程がキツキツです。オンライン事後参加でも同等の効果が期待できるメニューはそうのようにすべきでしょうし、その方が、過去の素晴らしいコンテンツも活用（視聴）できます。その上で、大会期間中はワークショップなど、オンサイトの利点が多いものを増やすべきかと思います。あと、ポイント加算とは関係無く、委員のみなさんが、過去にはプログラムの録画をしていたと思います。エド्यूケーターだけでも、できるだけたくさん視聴できるようにしていただきたいと思います。
過去に医学部で学習したときに、疑問に思いながらも未解明の事象も多々あった。それが、卒業して10年もすると解明された知見も増えている。エド्यूケーター講義でそのような話題に触れることで、自分が専門としない領域を講義するときに、しっかりと納得して教えられると思う。これまでのレクチャーはいずれも有益なものがあると思うので、会員サイトでつねにオンデマンド視聴することができると嬉しい。見逃したものの再視聴、倍速視聴、スキップ再生など自習のために活用できると思う。ポイント登録は「学会期間中のみの付与」のままだでも構わないと思う。
他の研究領域の複数の同僚から、生理学会の「生理学エド्यूケーター」の制度について、興味や関心を寄せられたことがありました。その中で「生理学会は実験系の学会なのに、教育をしっかりと評価しているのは驚きであり素晴らしい取り組み」と褒められたことが何度もあります。この制度はバージョンアップしながらも、残していくべきと強く感じます。
試験にして受講義務をなくしたほうがいいのでは。
生理学エド्यूケーター認定を受けたことで、医療系大学や医療系専門学校等での「生理学」教育の発展につながるような更なる取り組みが必要だと思う。認定方法、更新方法の見直しも必要かもしれない。もっと価値ある資格制度になれば、個々の教育の質も向上できるのではないかなと思われる。 Chatbotの出現や、アフターコロナの文化断層により、今後教育現場においては教育制度自体が激変していくと思われる。教育機関は変質していくだろうが、情報の正確性の担保など専門教育機関というものの重要性は変わらない部分もあると思う。この激変に早めに対処していくことが生理学エド्यूケーターの価値を決めるとと思われる。生理学エド्यूケーター制度を支えてらっしゃる先生方には新時代での教育を見据えての行動を期待したい。また、自身も生理学エド्यूケーターの一員としてこの激変に臨んでいきたい。
現状で良いかと思います。
基準をもう少し上げた方が良いと感じる。特に実状を考慮するべき（教育年数、実績）。若く、経験の少ない人を認定することの善し悪しを考えるべき。教育者であり、研究者である。
Cat1-2未更新・予定の方の御意見
生理学エド्यूケーターの制度自体は大変素晴らしいことだと思っています。学会に資格として認定されることで、特に若手～中堅のモチベーションやプロモーションに役立ち、最終的には日本生理学会の発展に寄与できると思います。 1点お願いなのですが、単位を取得できるのが、年1回の年次学術集会のみである点が残念に思っています。例えば、各地方会でも（他の臨床学会がやられているように）、指定講演や教育講演なども単位が取れるようにするのはいかがでしょうか。資格取得までの期間が短ければ取得しやすくなると思います。その代わり、受講の厳密化や、受講後の理解度確認のミニテストを経ての単位認定など、工夫されるのはどうでしょうか。ご検討いただければ幸いです。
エド्यूケーターを維持するために学会の研究発表を聞けない時間帯が出てきてしまうので、学会開催と同じタイミングである必要があるのかは今後議論の余地があるのかなと思いました。
当初、これは教育レベルを担保して、キャリア形成機会の一環として、生理学系の教室への就職時には必須の資格になる、ということで高額な認定料を支払ったのですが、実質的にそのような動きは感じられず、ただの会費集めなのではないかと勘繰ってしまう部分が大きいです。 上司や推進されている先生方に「すぐいい取組だから」と勧められると嫌とは言えない立場上、あまり嬉しい試みではないです。生理学会全般にはシニアの先生方の意見が非常に強い分野ですので、こういうやり方に嫌気がさして若手を遠ざけてしまっているというところもあるなと大いに感じています。実際、若手の方の反発は非常に大きく感じます。それ自体は良い取り組みとは思っていますが、認定料で課金するのではなく、必要ならば会費を値上げして会員全体に上乗せで対応すべき内容だと思います。それほど少額ではないですし、手間もかかります。おそらく認定の作業にもものすごい手間と経費がかかっていると思いますが、それは本当に会員に必要でしょうか？ 一方で、学会での教育講演の充実などについては、ご尽力いただいた成果を感じています。当初は勉強になり、ありがたいものが多かったと思っています。ただ、最初はそれなりに納得できる部分はありましたが、学会でのポイント集めに奔走して肝心の演題が聞けないという例は多発しています。また、時間をとって講演をきいてみると（良い先生の話ではあるけれども）これは教育講演ではなく、ただの研究発表の宣伝ではないか、と疑問符がつく講演もありました。ポイント化というのも重要とは思いますが、「認定制度」ではなく、普通の演題やシンポジウムの一部に組み込むとか、そういう形の工夫ではダメなのでしょうか。 模擬講義と教育メソッドのいずれも大変参考になっています。学会ウェブサイトに参加資料や参考ウェブサイトのリストが掲載されるとさらにためになります。
取得することによる教育現場での利便性を前面に押し出していたが、実態はかけ離れている。取得意義をもっと明確にしていかないと、意味が認定制度になると考える。
取得したことでのメリットが感じられない
生理学エド्यूケーター認定された方の体験談（どのように活かしているか、どのように役立っているかなど）を学会員が知ることができる機会があれば良いと思いました。日誌の記事やウェブサイトでしょうか。

学会期間中の教育関連の講演やモデル講義と他のシンポジウムとの時間帯が重複することがあるため、オンデマンドでの受講機会はそのまま続けていただければ幸いです。また、産前・産後や子育て中の研究者にとっても、オンデマンドでの受講機会はありがたいとの意見もございますので、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。
授業時間が縮小していくこのご時世で、いかに効果的に難解な生理学的現象を学生さんに理解していただくか、ヒントを提供し続けていただくとありがたいです。
良かった点として、「日本生理学会が生理学のエドクターとして認めている」ということから、生理学教育に関する一定の知識・経験があると大学より評価された点。教育講演は、講義の進め方や講義内容の決定において非常に参考となった。
エドクターだとできることなどがあると良い。
認知度が低いので、各大学等教育機関への周知が必要かと思えます。また、在職中に生理学エドクターを取得しても、特にメリットがありません。何かメリットがあるような資格にしなければ、取得する人は増えないのではないかと思います。
専門的に学んでこなかった「教育法」の講演は特に役立っている。生理学の知識は教科書や文献からいくらでも入手できるが、どのように伝えるか、何を伝えるか、という教育技法は専門外のため独学では習得が難しいと考えている。
更新期間はもう少し長くてもよい気がします。
生理学エドクターとしての見識を持っているかどうかを実質的に評価する制度ではないので、実質的な価値は感じません。コロナ前、対面での教育講演の場でのこと「ここで抜けても参加ポイントつから抜けちゃっても大丈夫だね」などと言いながら会場を後にする人がいました。生理学云々以前に教育者としてどうなんだ
コロナ禍が終わっても学会会場に行けない予定がある場合のためにオンライン・オンデマンドは続けて欲しい。学会大会以外にも教育を受ける機会があると良いと思う。
現在の「希望すればほぼ無条件で受けられる認定」とは別に、でも構わないので、教育能力にもう少し現実的な担保の意味合いのある認定枠があってもよいのではないのでしょうか？
教育講演は今後も継続して頂きたい。とても勉強になります。認定制度そのものは現時点で特別なメリットが感じられない。就職・昇進などに有利に働く、学会からも社会に対してエドクター認定制度をアピールし、社会に認識してもらうことで認定員の活躍の場が生まれ、活躍の場を学会員が感じることができれば、認定を受けたいと思うようになるのではないかと。認定員としての活躍の場が非認定員と変わりが無ければ、対費用効果を考えると認定を受けたいと思う人は増えないように思うし、既に受けている人も継続したいと思うかと問われれば、メリットを余り感じない気がする。
日本生理学会大会以外でポイント獲得の機会があると嬉しいです。また、日本生理学会大会で教育セッションのオンライン受講ができると嬉しいです（前回大会で教育セッションのオンライン受講できたのが存じ上げてなく、受講できた場合はオンライン受講の継続を希望します）。
1) 以前にくらべ、大学等における高等教育の質へ、社会の注意が向けられている。このような状況では、キャリア形成の一助に有意義であると感じている。とくに生理学講座と異なる所属の場合は。
2) 教育講演等の受講についてZoom（ハイブリッド及びオンデマンド）の活用を継続いただくとありがたい。教育講演の受講と、興味のある研究発表の聴講がともにできる。また以前にくらべ、研究者は非常に多忙となった。とくに、多くの私大では、研究以外の業務において、ひとりで多数の役割をこなすことが当然になりつつある。オンサイトでの大会参加が苦しい場合も想定される状況である。
学会期間中、教育プログラムと他のプログラムが重なることがあったが、近年のオンデマンド配信にて両方共視聴できるようになったので大変ありがたいです。是非、教育プログラムのオンデマンド配信は続けていただきたいと思います。
取得や更新については現行の制度で良いと思います。アウトリーチ活動にもつながるような仕組みがあれば、なお良いとも思います。
生理学会員の中には理工系学部で生理学を教えている教員、コメディカル養成コースで生理学を教えている教員も居る。これらの医師養成コースとは異なる学部・学科での教育も考慮した教育プログラムなどを実施するとおな良いと思う。
教育を軽んじる気持ちはありませんが、大会では、できれば多くの新規研究発表を余裕をもって視聴したいので、そうした研究発表と被らないような単位取得方法があれば、より参加しやすくなると思います。
コロナで認定期間が延長されたにもかかわらずポイントの有効期限が延長されない、FAOPSや誌上開催によりポイントを取得する機会が減少したなど、ポイント制度に問題が多いため、改善して欲しい。
ポイント取得のために、日本生理学会大会の学術プログラム（シンポジウムや講演）参加を諦めなければならない。教育講演などの時間帯と、シンポジウム／講演の時間は重ならないようにして欲しい。
自分の専門以外でも知識の確認・更新ができるので続けてほしいが、費用をもう少し抑えられるとよい。
会員には生理学エドクター認定制度を周知していると思いますが、会員外にもその意義を広報していただきたいと思います。そうすることで、生理学担当の教員公募への応募などの際にも生理学エドクターであることが有利になるなどに繋がるのではないかと思います。そうなれば、より多くの会員に認定を受けるモチベーションにもつながると考えています。
Cat1-3未認定・予定の方の御意見
生理学エドクター認定制度は、生理学教育への敷居を高めてしまっているのではないかと思います。評議員制度も、教授間の好き嫌いなどのバイアスを入れる人間が、理学部に存在する悲しい事態が起こっている。限られた議員や既得利益者が仕組みを作るのが本当に日本の生理学教育のためになるのかよく考え、能力や努力で評価される仕組みに変えた方がいいと思います。また、一部、トレンド重視の遺伝子解析が流行っている（ちょっと遅かった）が、ノーベル生理学賞に倣うのはいいが、十年後～三十年後にその学問領域は生理学たるもののか、再考した方がいいと思います。生理学の本質を見極めた議論を期待します。
定期的に他用と重なり学会へなかなか参加できない。生理学会が主催する本会や関連研究会に参加した評議員の中で、職位、教育歴、論文数、オンライン聴講をクリアすればエドクターを認定する等、もう少し条件に幅を持たせて欲しい。
医師国家試験や新医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った講義内容におけるカートの置き方などをまとめたスライドも含めていただけると、大変勉強になると思っています。
認定を受けるための費用（出願料、登録料及び登録更新料）が高すぎると思っています。
オンライン学会で聴講した講習会のポイントの確認がうまくできなかった。過去のオンラインでの講習会の受講ポイントの確認はどうすればよいでしょうか。
最初の制度導入時は、それなりに十分な経験を持っていれば移行措置的に実績認定されていたが、その時期を逃してしまった人たちは、あるいはその時生理学会会員ではなかったがその後教授などに就任した人たちは、十分な経験と貢献と実績があっても申請できず、学会中も、指導や学会公務や交流で多忙で指定レクチャーを聞きとおすことは難しい、その差が大きすぎるのではないのでしょうか？
申請に評議員の推薦書が必要とすることは、申請のハードルになるのでやめたほうが良いと思います。
認定要件が少し厳しいように感じます。生理学会大会において、教育プログラム講演に参加した場合のみ、ポイントが得られるというのは、プログラム中に別のセッションで講演などが割り当てられてしまうと教育プログラムに参加出来なくなってしまうりするので、ポイント獲得ができない事態が発生したりして、モチベーションが下がった経験があります。
学会参加を条件にするよりも、参加費を支払っても良いのでオンラインセミナーなどで資格認定して欲しい
昨年初めて受講しました。生理学の色々な分野があるので、年ごとにそれぞれのテーマを決めて実施いただくと有難く存じます。また、そうすることで、継続的に会員が参加する意欲が湧くような気がします。
この制度により、全国の生理学教育の質が向上することを期待しています。
5年以内に15ポイントの規定が短く感じている。家庭や他の業務が忙しく学会に参加できない年が続いて5年を過ぎてポイントが失効してしまった。
必要性を感じたことはなく、更新や支払いなど手続きが面倒なイメージが先行して二の足を踏んでいるところがある。毎年の企画、運営にあたってくださっている先生方には敬意を表したい。
オンライン講習を可能にしてほしいです。学会の全日程に参加することが難しいです。
来年度、申請いたします。どうぞ宜しくお願い申し上げます。
認定を獲得したいと思います。

「生理学エドューケーターとは何か」が学会外部に対してほとんどオープンになっておらず、一般に存在も認知されていません
生理学エドューケーター認定を受けるための費用がとても高く、また認定を受けて周りからどのように評価されるのかわからないことが、疑問であり不満です。認定を受けるために必要な内容は非常に甘く、認定を受けたからといって生理学の知識や教育能力を証明するものにはならないと考えています。ですので、現状では、履歴書の欄に書く項目が1つ増える程度のものだらうと認識しています。
実際はそうではないとしたら、一般の人への認知度はこの程度だと受け取っていただき、認定を受けて得られるメリットなど明らかにしてほしいです。また、費用が認定を受けるのに妥当とは思えません。お金稼ぎの目的で作った制度ではないか、とも考えられてしまいますので、認定費用の妥当性と、費用が何に使われているかも明らかにしてほしいです。
認定の申請をしたいと思っております。制度の継続を希望いたします。
教育プログラム自体は教育に大変役立つと思っていますが、認定制度とすることの意義が不明瞭な印象です。認定制度とする必要はないように思いますが如何でしょうか。
学会員以外の認知度が低いので、教授選等に役立つようには思えない。持っていることのメリットも不明確。実技試験なども課して実質的な物にした方がよいと思う。
教育プログラムへの参加だけでなく、全ての認定希望者に対して、認定試験を課するなど認定基準を厳格化することで資格の価値を高めていけばと考えます。
生理学エドューケーターの認定の基準が、所定の講義受講や学会発表の実績などであり、真に教育に適合した生理学的な知識を有しているかどうか、基準とはズレがあるような気がいたします。
オンライン学会で聴講した講習のポイントの確認をする方法がわからず、困っています。
自分が今何点なのかよくわからない。あとどれくらいで認定ポイントに達するのかよくわからない。
そのようないい制度があるのを今知りました。ぜひ参加してみたいです。
認定されても特に何もなさそう、という意見が多い、教育公演を受講する態度も様々で何が認定されたのか不明。
モデル講義は、たいへん参考になります。認定制度とは無関係に、録画の視聴が可能になると、たいへん有用と思います。
生理学教育のみならず、教育手法など一般的な教育（研究）に関する内容もひとつ入れていただくと、今後の教育の参考になるかと思います。今後も同制度に期待しております。
学会大会の運営に携わっている先生方であっても認定されやすい制度であると尚よいと思います（大会運営のため教育口演のポイントが取れないため）。
学会へ行けない場合の処遇について考慮頂けるとより受講者が増えたと推察いたします。
それぞれの講演への参加で取得できる点数がわかりにくい。また生理学会年会以外の関連学会・研究会への参加でも点数が取得できるようになると、より参加意識が高まると思う
申請方法や条件が分かりにくい。一見して理解できないので、改善して頂きたい。
アーカイブで学べる教材があると良いと思います。
講座をオンラインでも受講できるように頂けると有難いです。
制度については知っていたが、受講したことがない。理由は、学会会期中は最先端研究に集中したいため。学会研究活動と教育活動は分けてほしい。WEBなどの講習（オンデマンド）も活用して、生理学教育の向上につなげて頂きたい。
個人的な事情ですが、地方在住＋子育てと家族の介護で家を長く離れることができず、遠方から年会の対面参加が難しい。最近は性別問わず本職以外にも家庭の仕事が増えており、このような人も多いと思います。一方で、近年リモート環境が整ってきたので、年会以外にも、エドューケーター認定の単位を得られるオンデマンド学習などを充実させてみてはどうでしょうか。他の学会では、生涯学習もかねて、ホームページでコンテンツを配信しているところもあります。
自らも生理学的手法を基幹とした研究を展開する立場なので、先達に倣い、この機会に生理学エドューケーター認定制度に応募したいと考えるようになった。しかし、雇用任期が限られていることも生理学会（他学会の活動においても）に積極的に参画できない大きな理由となっている。このような研究者の現状も少し考慮に入れていただければ、とても助かります。
医学教育への生理学の重要性を啓蒙する意味では良い。
認定を受けるための手続きで、評議員による推薦に代わる手続きが何かできるとありがたいです。
生理学エドューケーター認定制度の詳細についてまだよく理解していませんので、理解できたらと思います
対面開催の際は、聞きたいセッションと重なってしまっ受講できませんでした。ハイブリッド開催になってからは、後日の受講ができるので、受講したいと考えておりますが、今度は業務の合間になってしまい、なかなか受講できません。が、合間を見て取得したいと考えております。
「生理学モデル講義又は教育講演など委員会が指定するイベントに出席」ということですが、学会員であれば、過去のイベントをオンデマンドで受講して設問に答えられたらポイントを認めるというような柔軟な対応もあっても良いかとも思います。ご検討のほど、よろしく願い致します。
生理学エドューケーター認定制度には興味を持ちました。尊敬する先輩・先生方が認定を受けられていることを知り、自分もそうあるべき・そうありたいと思います。しかし、海外に留学していた期間が長く、また国内で独立してからも、任期付きポジションの連続で研究グループの運営に手一杯です。教育に十分関わる機会が多いわけでもないで、自分のチーム内の教育は行き届いておりますが、「生理学エドューケーター認定」を受けずとも着実にしっかりした研究を進めることができます。尊敬する先輩・先生方に倣い、自らも認定を持っていた方がよいと思いますので、機会を見つけ、生理学エドューケーター認定制度を是非受けてみたいとは考えています。
例えば、独立した生理学研究成果を上げていることや、生理学の査読論文を責任著者や筆頭として少人数一人で出版しているなど、でポイント獲得が増えるなど、認定に関するハードルが下がってくると、認定準備に要する時間が少なくなるので、積極的に参加したくなります。いまは、体制が十分でない環境なので、認定制度だけに時間を費やすことはできません。また、認定を受けていない生理学者は、不利を被るのでしょうか？
学会大会で教育講演が他のシンポジウム等と同じ時間帯にプログラムされているため、エドューケーター認定の申請に必要な分の講演を受講することが困難であると感じています。
認定制度を取ることによって、何が得られるか、という点が分かりにくいと思いました。具体的に何ができるようになるのか、何を認定しているのか、どういう状況で使用するのか、という点がクリアになったらありがたいです。

Cat2-1更新済・切切の方の御意見

教育講演を聞いても、本人のティーチングスキルが必ずしも向上はしない。お金で認定を買っている印象がぬぐえない。しかも、対外的な評価が明確ではなく、私の経験からは存続の意義はあまり感じられない。
社会的認知度をもう少し高める必要がある
生理学エドューケーターは、学会大会の教育講演への参加ではなく、①生理学年間講義数を提出（シラバス等を証拠書類として）して更新できる形にしては如何でしょうか。
認定年数又は更新回数によりシニア制度のようなものもあっていいのではないかと。
その分野の専門の人が教育講演を行うのはとても有意義であるが、それを聴いたことがあるかどうかを単なる資格・認定制度にしてもあまり意味ないかと思ひます。たんなる聞いた聞かないの認定ではなくて、その教育講演時に用いたプレゼン資料を聴講者がダウンロードできるようにして、実際の教育の現場でも教材として聴講者が自由に教育目的で使えるようにすると、聴講者の参加するmotivationもあがり、教育現場の質も上げられるのではないのでしょうか？
FAOPSやIUPSの教育ワークショップを通して、海外の生理学教育事情を聞けるのは大きな魅力であり、こうした経験を多くの学会員に体験してもらいたい。
必要ない制度だと思います。
模擬講義は他機関の教育を参考にしたり、不得意な分野を勉強する良い機会を提供していると思います。ただ、カリキュラム上で「生理学」という項目が無く、殆どの学生が生理学の教科書を持っていない大学もあります。「生理学エドューケーター」といっても、その役割がピンと来ない若い人も多いのではないのでしょうか。

生理学教育のエフォートがもともと高い人にとっては、メリットはない。教育から少し離れている方にとっては、対外的にメリットになりうると思う。対外的にメリットになるような仕組み・制度の充実を期待している。
Cat2-2未更新・打切の方の御意見
さっさと辞めた方が良い。教育の質を高めるためにやるのであれば、オンデマンド配信を増やした方が良い。そのうえで、現地交流する枠も確保すればよいが、現状では学術集会の枠を取り過ぎていて、学会の学術の質を下げている。本末転倒である。 医学教育における制度の目的などは素晴らしいと思うが、会員数を増やす（維持する）策の一つのように思ってしまった。 負担が増えるのは望んでいないが、学会発表をしたり、聴講したりするだけで得られる認定なので、講義を行う参考にはなっているが、正直な所この制度にどれだけ意味があるのかわからない。また、エドューケーターの指定演題を聴講するために、聴きたかった他のシンポジウムが聞けなくなるのは困る。エドューケーターの講演だけでもオンデマンドを続けて欲しい。
所属が生理学講座から別の領域(教育支援センター 地域医療教育部門)に異動になってしまうと、なかなか更新するまでの時間を捻出することができず、またメリットを感じることができませんでした。仕方のないことで、個人的な意見になってしまうことをご容赦ください。 履歴書に書くこと以外で生理学エドューケーターを持っていることのメリットがわからない。また、生理学エドューケーターが客観的にどういう評価を受けるのかわからない。 会員の学会参加には貢献していると考えます。 学会参加以外の更新ができないのは現実的に厳しい。
Cat2-3元認定の方の御意見
大会で教育プログラムを聞いただけでエドューケーターと名乗ってもそれは実質的な教育力が高まったことにはならないと考える。現状のエドューケーターはスタンブラリーのように形骸化しているように感じてしまい、私個人としては生理学エドューケータを持っているからと言って人事でプラス査定することはないと思う。本気でエドューケータを育成するのであれば評価システムがなければ意味がないのではないだろうか（教育プログラムの内容をちゃんと理解しているか？教育技能は？）。 大変よい制度ですので、更なる周知活動をしてください。特に研究所などの教育歴が得られない若手研究者には今後の大学等へのステップアップに向けて重要な制度と考えます。 認定制度はあった方がよいと思う。生理学研究・教育者であるという自覚と責任を持つことは重要と思います。 教育講演を聞いて単位をとるだけで本当に生理学が教えられるのか？エドューケータの質保証の点できわめて問題を感じている。また、エドューケータの認知度は低く取得してキャリアパスに役立っているとは思えない。むしろ、キャリアパスで必要なのは実の教育経験ではないか。実の教育経験を評価するようなエドューケータ制度の方が、若い人のキャリアパスに有用に思える。 卓越エドューケーター制度もまたしかりで、教育に上も下もなく何を目指すのが不明である。学会の集金目的もあるのであろう。ただ、取得のために費用が発生するようなやり方は、若い薄給の基礎研究者には負担であり、臨床医や産業医の制度は向かないように思う。
新人のためには役立つと思う。他領域出身で生理学講義を担当することになった人には重要。何10年も生理学講義をしてきた者にとっては、手続きが厄介なだけで、必要なかった。 メリットを感じなかった。 ご尽力には敬意を表します。大学など医療系教育機関に所属されている方々には、分野別評価などで求められている教育改革とうまく連動させていっていただけることを期待します。 制度自体は、大変良い制度であると思っております。大学の役職などにつくと、特に年度末の大会への参加が難しくなります。更新のハードルが高くなり、更新ができず大変残念に思っております。復活制度などをご検討いただくとありがたく存じます。 模擬講義などのオンデマンドコンテンツを充実してほしい。 年をまたいでポイントを保有して申請、では申請手続きを失念する者も多いと思う。 生理学エドューケーター制度は教育へのモチベーションを高めると同時に、社会的信用も得られ点でメリットはある。

Cat3 非認定の方の御意見
これを得ることによる会員のメリットが現状あまりないように思われます。医学部や看護学部では異なるかもしれませんが、支払うコストに対してその他の学部で有用であるように感じられないところがあるところだと思います。 エドューケーター認定されている教室員の（学生からの）講義評価が、大学の基礎部門で最低の評価を受けています。認定の質保証をする制度があるとは到底思えない。認定のために学会に出て座っているだけになってませんか。 このような制度を学会が主導することは大変有害であると考え。この認定を以って、資格のように意義付ける動きがあった場合、生理学会に所属し、その言いなりとなってそれが勝手に認定する「資格」を取得しないと生理学教育者として認定されない、という既成事実が醸成される可能性が高い。本来この制度は、大学での教育に携わっていない、「生理学教育者」の救済といった色彩が強かったと聞いているが、実際には必死で「資格」取得に励む大学人を散見する。これでは本末転倒であるので、わたしは上記のような意見を持つに至っている。個人的な心情としては、このような愚劣な制度は、即刻廃すべきであると考えている。 医学部生理学教室に長く勤めているので、制度を利用しなくても教育歴があることは認知されており、自分にとっては必要性を感じない。ただ制度自体は必要とされる方もおられると思いますし、学会で教育に関したプログラムなどで興味深いものがあればぜひ聴講したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 最新の研究成果を噛み砕いて紹介するだけではなく、それをいかにして講義で学部生に還元するのか、あるいはコアカリキュラムとの整合性といった観点からのリソースや講義の手法を具体的に提示する方がよいと思います。 エドューケーター認定があるから生理学教育ができるわけではないので（逆になければ生理学教育ができないわけでもない）、率直に言うと現状では意味が見出しにくいです。教育講演の内容は実際に生理学の講義や実習を行う上で非常に参考となる素晴らしいものもありますが、単なる研究の話も多々あり、後者の講演は聞いてポイント取得して教育にどう影響するかは不明です。そもそも高々いくつかの講演を聞けば認定される制度で保障される生理学教育経験とは何でしょう？現状では制度そのものの目指す所がよく理解できません。 教育の質を向上させるためによいことだと思います。 教育についての箔付けが必要な立場の人たちから登録料を徴収する制度であり、共感できない。登録料や手数料ではなく、全面的に寄付金で制度を維持すべき。教育講演を担当してくれた先生方への寄付なら払いたい。 私の所属する大学の事情が大きいのだが、もう少し資格認定の方法を多様化して欲しい。また、15ポイントは少々多いのではないかとと思う。 制度がなくなること特に不利益はないように思うので、この制度維持のために割いているリソースを他の事業に充てるべき。 更新料取ったらアカンと思います。エドューケーター認定で講義の質を担保するというような発想も受け入れられず(授業の質は公開授業で学生・教員が好みにコメントできる環境でなければ分らない)、無理やりメリットを強調するのもおかしいと思います。 長期的に会員を繋ぎ止める方策としては優れた制度である。一方で、長期間、学会に会費を支払えば手に入るものでもあり、学問としての必要性より、政治的な意味での必要性を感じざるをえないのが残念でもある。 生理学教育に携わる人には重要だと思います。私は研究ではかかわっていますが教育では生理学にかかわっておりません。 生理学者の教育資格は単に学会の中での認定基準などによって決めるべきものに非ず。 教育プログラムのモデル講義などは参考になる。

non-MD教員が医学部教育において獲得することのできる貴重な制度であり、今後の更なる進展を期待したい。生理学教育に特化したものの以外の医学教育一般に関するところでは、他の基礎系学会との共同企画、共通資格などへの取り込みがあると良いと思われる。

一方、MD教員にとって、この資格を維持することの意義、有用性を高めるには、公募における記載要件などに含むなどの認知度を上げていくことも重要であろう。臨床系医師にとっては、専門医資格の維持との関係もあり、資格としての取得を必要とされるかは疑問である。そもそも、エドευケーター制度の資格保持とともに、どの程度の学会員が臨床系の専門医をどの程度持っているか、アンケート項目に入れておくとよかったかもしれない。

推薦人となる評議員の名簿は公開していただく方が望ましい。

エドευケーター認定者による教育が、そうでない方による教育より優れている（学習効果が高い）という検証結果（同一の受講生での比較はできないので、厳密にはエビデンスと言えませんが）があれば、認定制度の価値は高まると考えます。

受験資格として数年間大会に参加し参加単位を得なければならぬが、試験合格とは、全然関係ないのではないか。

医学部生以外への教育を想定した活動も必要ではないか

模擬講義を何回見ても、教え方が下手な人が上手になることはないと思う。実際、周囲で生理学エドευケーターを持っている人は講義の評価の低い人が多い。講義評価の高い人やベストティーチャーになるような人はほとんど生理学エドευケーターを持っていない。そういう意味では、生理学エドευケーターは講義が苦手な人（下手な人）を見つけるための便利な逆指標になっていると感じる。改善すべき点は、模擬講義をただ視聴するだけでなく、実際に講義をするなどの「実技」も取り入れることだと思う。そして、あまりよくない講義も見せるなどして、どこが悪いのか、この講義の改善点はどこなのか、などの「試問」も必要ではないかと思う。有名無実の生理学エドευケーターは、今後、生理学会の信頼性を失墜させかねないと感じている。模擬講義などを拝聴し15ポイント以上を持っていますが、無駄に高い申請費用のこともあり、申請する気にはなれませんでした。

厳しい言い方をしますが、エドευケーター認定は教育職に就いていない方のためのものであって、既に教育職として禄を食む者には無用の長物です。助教や講師からの昇任には全く必要でないことを学会として情報共有した方が良いのではないかと思います。

実質的に教育能力を高める方策はなく、指定された時間に座っていれば取得できる資格であり、意義を感じない。学会以外での認知度も低いので、資格としての有効性もなく、学会関係者であれば教育能力を反映した資格ではないことを理解しているので、資格自体持つ意味が無い。

生理学エドευケーターは、プロモーションの際に特に評価される資格でもない。特に医学部においては、医師免許以外は教授選等ではプラス評価にならない（自分の教授選考委員側としての経験）。nonMDの若い人たちにとって持っていることが、基礎医学系のポジションに対するプロモーションの際に評価される資格にしていけるなら意味があると思う。

講師を学会員選挙で選ぶようにすべきである。

自分にとって取得する利点がありません（教育や就職等に影響しない）ことや、年会でシンポジウムなど研究関係のセッションと同時並行で行われる教育関係セッションに出席しなければならないことから、取得する動機が薄い。せめて、年会の教育セッションを他の研究セッションと重ならないようにしてもらえれば参加するかもしれない。または、臨床系の学会のように、年会に参加することでポイントが付与されるなら取得するかもしれない。

この制度による学会への帰属意識や学会運営費を維持する試みは、さもしく思える。

オンラインでも受講できるようにしてほしい。エドευケーター認定制度を学会参加クレジットにするように見えますが、それをする限り認定者は増えていかなければならないと思います。生理学という名前はもはや医学部における教育プログラムの中だけでしか存在しないほど大きい学園体系だと思います。しかしながら、電気生理学をやっていない研究者は生理学者ではない、などという価値観を育てるほどに分野・手法バイアスがかかっていると思います。それにより教育の権利も奪われたほです。生理学会の中にそのような分野・手法差別が存在するようなら生理学会の発展もエドευケーター認定制度の進展もありえないと思います。

教育の質を高めるため、認定制度があってもよいと思うが、認定されないと生理学教育ができないというようなことになっては困るし、そのような方向へと指向しているのであれば賛成できない。

大変勉強にはなっていますが、あまり包括的にはなっていないような気がして、単なる教育プログラムになっている気もします。

多くの大学の生理学担当教授選考において、研究業績が重視され、生理学エドευケーターであることはほとんど考慮されていないと思われる。

医学教育以外の生理学についての対応があると良いかもしれません

これは所属している大学の問題であるが、生理学大会への出張許可がもらえないために教育プログラムへの参加がほぼできないでいる。大会以外の時期での教育プログラムの開催頻度を増やしたり、オンラインで参加できる某かのプログラムの開催等を期待している。

普及するのであれば生理学関連教育への従事歴等に基づき、公平に認定すれば良い。現状は学会のための認定制度のように思える。

学生が生理学の教育者になるのを助ける機能があれば活用したい。

年齢的に参加はできませんが、とてもよい制度だと思いますので、発展させて下さい。

大変素晴らしい制度です。学会内外にしっかり宣伝して登録者を増やし、収入面での貢献をよろしく願います！

生理学教育歴（例えば）10年以上の会員には（希望すれば）無償で永久に認定供与すべき。講義実績や研究業績の書類審査は必要。例えば30年生理学教育歴のある教授が非（無）認定として、それは正しい認定制度であるか？

評議員ではございますが、本制度の意義がつかめておりません。申し訳ございません。

生理学会は生体の理を理解する非常に大切な分野ですが、学会員数の低下をはじめ、プレゼンスを高める必要があることは常々感じております。エドευケーター制度が非常に重要かつ有用なものになればいいのですが・・・。メリットとなるようになるよう、付加価値を高めてもよいかもしれません。

集金システムにしか思えない。

生理学エドευケーター認定は取得する予定はありませんが、学会での単位（ポイント？）取得のための教育講演はとても分かりやすく、よく拝聴させて頂いています。

何度か教育プログラムを拝見しましたが、「面白くない」です。なぜなら、指導法に関する質疑応答が全くなされていない。無条件で、「モデル講義の授業は素晴らしい」としているから、ケチのつけようがないのですよ。本当は「この教え方でいいのか？」と疑問に思っている事もあるし、実はケチをつけてくれた方が学びにつながるのに生理学会の会員は年長者をはじめ医学部の気質が色濃いのですという風にならない。それなら直接、できる先生の前で講義して評価を仰ぐとか、できると思っている先生の講義に突込みを入れるほうが遥かに有意義だと思います。

良いと思います。

若手の研究、教育をする先生方には必須の技能認定となるように制度を高めて行って欲しい。

生理学エドευケーターとはエドευケートする人のことだと思いますが、そのための認定条件が入力（稀にディスカッションもあるがモデル講義を聴くこと）メインになっている。エドευケートする人に必要なのは出力（講義をすること）であって、入力ではない。むしろ、講義をする能力を見て合格（モデル講義と同等、あるいはモデル講義よりも上手な講義）ならば、モデル講義を聴く必要はないと思います。判定基準が真逆であり、このような制度でお金を取ってはよくないと思っていますし、認定制度の意義を感じません。

Q18.「生理学エドευケーター認定を受けたことで(あるいは受ける途上で)感じたデメリットがあれば記載してください。」に対する自由記載意見（カテゴリー別にまとめずほぼ全記載を掲載）

***特になし／ありがとうございます／今後もよろしく願いいたします などだけの記載は削除しました。**

エドευケーター取得者のレベルに差があり過ぎて、臨床の専門医のような一定のレベルが担保されていないこと。

お金がかかるが見返りが何もないと感じられること

この制度が職場で生かされることが全くないこと

コロナ禍前の大会で指定・教育講演を受講するために、他の演題の聴講を諦めたことがある。一方、コロナ禍でZoom活用いただいたことで、そのような事態が解消されことは良かった。

デメリットは特にございませんが、取得した事による明確なメリットもわかりませんでした。取得に至るまでに受講した教育プログラムは大変勉強になりました。このような制度、機会を設けていただきありがとうございます。
デメリットは特にないが、それ自体を使うことでのメリットとしてもあまり顕著なものはないと思われます。アカデミアに属する者の資格としての位置づけのように考えています。
まず教育に関する意識が高まるし、他の先生がどのような講義をされているか参考になる。
学会大会の教育プログラムに参加できない場合の他の機会が少ない
教育講演を受講することは認定を目指す目指さないに関わらず大変役に立ち、とてもありがたいものである。一方、認定後に特別なメリットがあるかと問われると認定そのものがメリットとして感じられる事象はなかった。例えば、学会から認定員に対して一般市民への講義依頼など。現時点では少なくとも登録料だけがかかり、認定されていることが特別何か有利に働く、役に立つと感じられるものではない。
医学部出身でない外様の教員にとってはとても大切な機会であるため、繰り返しになるが本大会における教育プログラムは認定継続や申請に必要であるが、認定の有無・申請の有無に関わらず継続して頂きたい。
限られた学会の時間の中で、本来学術交流に使うべき時間を、教育プログラムに割かざるを得なかったこと。しかも、教育プログラムが提供する内容が、全く役に立たないことが多かったこと。教育委員会のメンバーが自分たちの存在価値を高めたいためだけにやっている自己満足のプログラムでしかなく、学会員のためになっていないと感じられ、この学会の見識を疑うようになったこと。
更新のための教育プログラムへの参加等を少々プレッシャーを感じる。教育プログラムはたいいてい人が多すぎて部屋に入れないケースもある。コロナで参加見送りなどもあって、不安を感じた。
持っていない人も持っていない人と何も変わらないこと
生理学の分野が一つになり研鑽し合うことの重要性があるとの一点で認定制度を使わせてもらってました。他の類似学会がうちもやろうと崇高な理念を掲げて始めましたが結局実っていないところを見ると動機が今一つクリアでなかったような気がします。問題なのはエドューケーター制度がそのとばかりを多少受けたところがあり非常に残念に思います。
認定者一覧が業者の無差別ダイレクトメールの宛先として使用されたこと。
教育講演を聞いて単位をとるだけで本当に生理学が教えられるのかが疑問である。本来は、専門医試験のように試験を行うなどの認定制度が必要とおもうが、エドューケータの認知度は低く取得してキャリアパスに役立っているとは思えない。むしろ、キャリアパスで必要なのは実の教育経験ではないか。実の教育経験を評価するようなエドューケータ制度の方が、若い人のキャリアパスに有用に思える。
卓越エドューケーター制度もまたしかりで、アウトカムが不明である。また、取得のためにさらに費用が発生するようなやり方は、若い薄給の基礎研究者には負担である。
目に見えて何か良いことがあるかと言われればない。
<u>その他 以下の意見は共通する記載だったので、件数のみまとめた。</u>
「費用が高い」「費用対効果が感じられない」など金銭的コストのみを指摘する回答 16件
費用負担と、手続きの煩雑さ（わかりにくさ）を指摘する回答 4件
大会期間中に他のプログラムへの参加機会が減ることのみの指摘 7件